

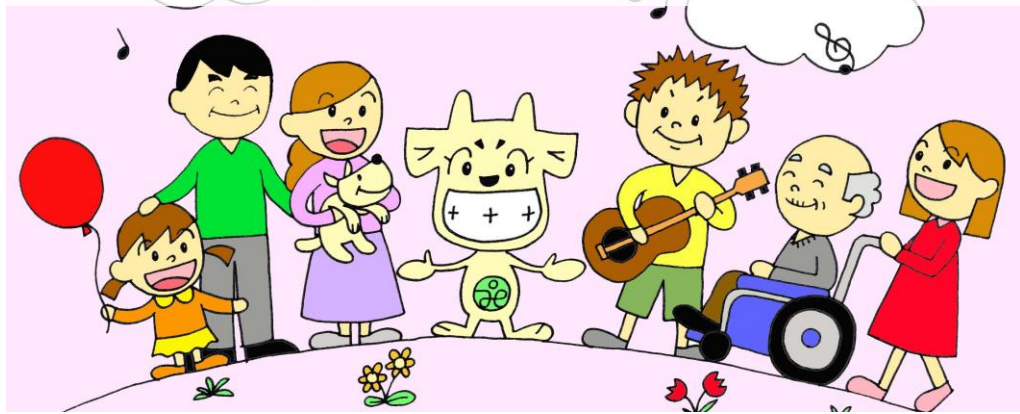


「第2回 廿日市市地域福祉活動計画推進委員会」

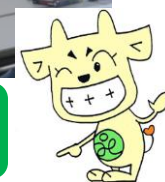
第2回廿日市市地域福祉活動計画推進委員会（9月22日）では、ヒアリングやアンケート結果の共有や研修会のふりかえりを行いました。また、委員の皆さんでこれまで出てきた意見を反映させた活動計画の体系（案）について意見交換を行いました。

活動計画の体系(案)への推進委員からの意見

- ・地域懇談会は吉和ではできているので、これを充実していけると良い。
- ・こども食堂とあるが、こども限定ではないので、こどものカテゴリーから外した方が良い。
- ・「孤立・孤独のない社会の実現」の項目は、色々な要素で孤立している人もいますので整理が必要。
- ・「権利擁護の相談・支援体制の促進」では、虐待防止についての記載をどうするか？また、内容については高齢者に限定しなくても良いのでは。
- ・全体的に企業を巻き込むことのできる形にできないか。
- ・学校との連携、課題を抱えるこどもについての話し合い、交流の場づくり等の意見があった。体系の相互の関係づくりをどのようにしていくのかが大切になる。
- ・枠を大きくして目標の数を少なくしてはどうか。たくさん分かれていると地域の人に覚えてもらいにくい。
- ・担い手の確保、人材の確保が重要な項目になると思うので個別目標に掲げてみてはどうか。
- ・若い世代と知り合う交流の場づくりも人を知っていく上で必要なことになるので目標に入れてみてはどうか。
- ・企業との協働で、配達業者による見守りの強化や企業へ障がいの理解を進めることができると良い。そのためにも企業に向けて福祉教育を進めて行くことが重要となる。



第4期 廿日市市地域福祉活動計画体系(案)
「住民一人ひとりが主役の福祉のまちづくり」



基本目標	個別目標
1. 安心・安全な暮らしの仕組みづくり	1 話し合いの場づくり
	2 安心・安全な地域づくり
2. 活動・交流のある地域づくり	1 持続可能な地域活動の実現
	2 ボランティア活動の見える化
	3 参加しやすい「きっかけ」づくり
	4 企業等の地域貢献
	5 障害者の社会参加の場づくり
3. 子どもが安心して育つ環境づくり	1 福祉教育の推進
	2 こども食堂の取組みの充実
4. 孤立・孤独のない社会の実現	1 ひきこもりの当事者・家族への支援
	1 就労による暮らしの安定を図る
5. 生活困窮から自立した生活への実現	2 居住支援体制の強化
	1 権利擁護機能の充実
6. 権利擁護の相談・支援体制の促進	1 権利擁護機能の充実

「廿日市市地域福祉活動計画策定研修会の報告」

社会福祉協議会の役職員、地域福祉活動計画推進委員の皆さんを対象とした地域福祉活動計画策定に向けての研修会を全2回開催しました。ここでは、2回目(9月27日)の研修会に参加いただいた堀理事へのインタビューをお届けします。（裏面に詳しい研修会の記事を掲載）

研修会参加者へのインタビュー



堀 尚美 市社協理事
(廿日市市民生委員児童委員協議会会長)

Q1. 今回の研修会に参加された感想を聞かせてください。

A1. 地域の課題はさまざまであり、異なるエリアの参加者の意見を聞くことで、新たな視点に気づくことができ、とても有意義でした。

Q2. 課題を解決していくために何かできることがあれば教えてください。

A2. すぐに解決するのは難しいかもしれませんが、今回のような話し合いの場をブレインストーミング的に継続していくことで、課題解決につながる良いアイデアが生まれてくるのではないかと思います。

Q3. 日々の活動を通して思うことがあれば聞かせてください。

A3. 物価の高騰などにより生活に不安を抱える方が増える一方で、地域のつながりは希薄になりつつあります。こうした中、民生委員として一人ひとりの状況に向き合うことの難しさを感じることがあります。今後は企業や団体との連携を深めながら、より多角的な支援の在り方を一緒に考えていければと思います。

「廿日市市地域福祉活動計画策定研修会の報告」

地域福祉活動計画の策定に向けて、住民や関係者が地域の共通課題についてともに考える場づくりが重要となるため、協働した策定プロセスや計画策定に必要な視点、実践方法を学ぶための研修会を2回開催しました。

◆第1回(8月29日)研修

第1回目の研修は社協理事、評議員また職員全体で、東広島市の取り組みを伺いました。

誰もがいつまでも安心して暮らし続けることができるまちであるために、1人ひとり、また地域全体でどのような取り組みが必要か協議し、住民参加、官民協働で推進していくための計画ということ学びました。

この研修を通じて、この計画を地域全体で協議しながら計画立てていくものという共通認識をすることが出来ました。

参加者アンケートからは「住民懇談会は地域住民の課題共有、自分事にするきっかけとして効果があるのではと



(左から) 東広島市福富地区民児協門井会長、東広島市社協山本係長、高橋課長にそれぞれ貴重なお話を聞かせていただきました



社協役員との意見交換

感じた」や「見守りサポーターとして約1200名の方が活動されている事、たくさんの見守りの目から課題など吸い上げて社協との連携に取り組まれている事、大変参考になりました」など、東広島市が地域とともに課題意識を共有し、計画とし、どうすればいいかを考える活動を、廿日市市でも実現したいという意見がたくさんありました。

◆第2回(9月27日)研修

第2回目の研修は地域福祉活動計画策定委員と市社協役職員を対象に、広島県社会福祉協議会地域福祉課課長補佐松井寛泰さんから計画策定プロセスや計画策定に必要な視点として、住民が主体となり、活動者、福祉関係者等の協力を得て、地域福祉課題の把握・解決のための取り組みを計画化していくことの大切さを学びました。

また、グループごとに協議の場を設け、廿日市市の地域の現状と課題の抽出、そして、私たちにできそうなこと、今後に必要な取り組みについて、意見を交わしながらわがまち廿日市市の地域福祉について考えました。

グループワークでは、担い手不足や、つながりの希薄化、生活困窮世帯の増加への懸念、孤立孤独が挙げられる一方、

企業の地域活動参加や、多世代にわたるつながりを模索する視点もあり、多世代が参加できるつどいの場を希望する声もありました。

新たな担い手の視点からは、つながりの意識や繋がる方法として回覧のデジタル化や、SNS など活用し情報提供を進めていく提案や、参加してほしい人の興味ある参加内容の検討も挙げられました。



(写真) 地区別に、推進委員・社協役員・社協職員での協議場面。地域での皆様の活動や抱えている課題等を共有しました

「ヒアリング・アンケートの実施」

計画策定にあたり、住民の皆さんや福祉関係団体が感じている課題や今後の必要な取り組みなどをお聞きし、計画に反映させるため、ヒアリングやアンケートを行いました。

次のような多くの皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

- ・自治会福祉部会員 ・老人クラブ ・サロン世話人 ・廿日市市ファミリーサポートセンター提供会員
- ・廿日市市公衆衛生協議会 ・ボランティアグループ ・地区社協
- ・権利擁護支援地域連携ネットワーク ・こども支援関係NPO ・ひきこもりの人のご家族

(令和7年12月1日時点)